



## 環境システム学I

グリーンアジア国際リーダー教育センター助教  
渡邊 智明

「環境システム学I」は、2014年1月6日と17日の2回に分けてグリーンアジアが開講した授業と、GCOE「新炭素資源学」の主催によって昨年8月に行われた授業と合わせて2単位を授与する科目となっています。これらの授業は、英語による議論を行うことを通じて、自分の専門分野だけでなく広く英語を使用し、コミュニケーション能力を高めていくことを目的とするものです。

グリーンアジアにおいて開講した1月の授業は、各回で担当講師による複数のテーマの出題、テーマ選択に基づいて分けられた学生グループにおける英語の議論、各グループによる議論の要約の発表、そして全体における質疑応答、というパート構成で実施されました。スプリング先生、渡邊貴史先生、アラダ先生そして私が、本科目を担当しました。

第1回では、「福島第1原発事故は日本における原子力発電の終焉のシグナルとなったか」「風力、水力、太陽光などの再生エネルギーは、本当に火力発電に取って代わることができるのか」「リサイクルは、法律的に義務化すべきかどうか」という3つのテーマに沿って、学生が議論を行いました。

第2回では、「科学者と技術者は、環境問題を解決することができるのか」「エコツーリズムは、地球環境の保全に有用なのか」「消費者の需要を満たしつつ、持続的な漁業資源の管理の方法はあるのか」というようなテーマについて、学生による議論が展開されました。

議論を目的とした授業の仕方も色々工夫が必要で、担当講師にとっては準備が難しく試行錯誤でした。ただ最初は、自分の専門外のテーマのため単語が浮かばず、英語による議論に慣れていないこともあって消極的だった学生も、表現が拙くても議論する姿勢が見え、コミュニケーションができるようになってきたことは、大いに意味があったと思います。この授業に限らず、様々な機会を見つけて、ビジネス、研究において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を磨いていってほしいと思います。

